

DRAMATIC ADULT COMIC



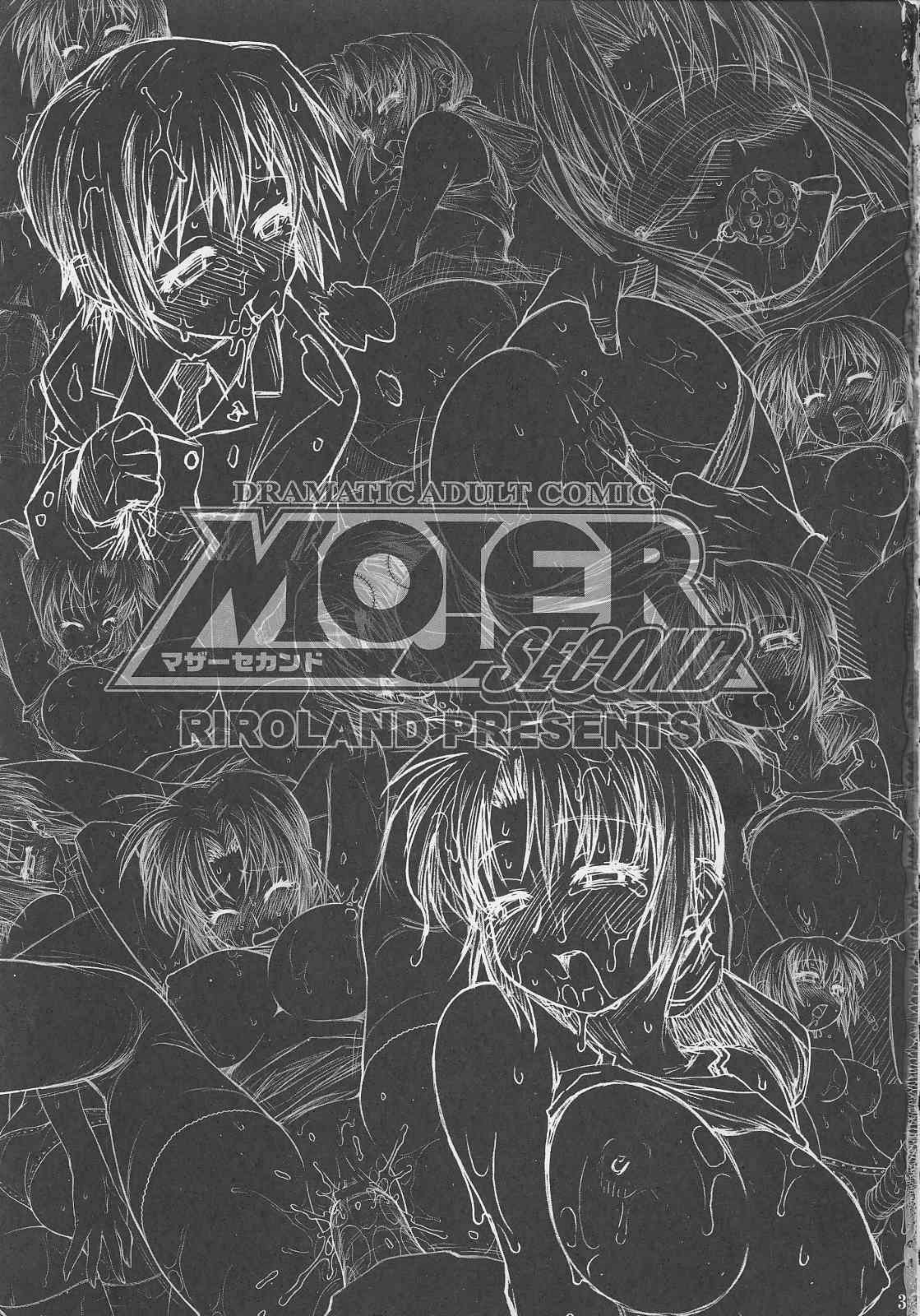
マザーセカンド

SECOND

...this year a 15x10...
the Soviet pan with waxed...
at half the... available...
that I out...
...the European...
...men

...Je...
Hope has...
put a foot w...
...ONALD...
...iously...
...raight). Stir tog...
...chocolate, coffee, and...
...e over egg whites. Fold yo...
...to egg white mixture...
...ared pan. Bake in a 375...
...the pan...

RIROLAND



DRAMATIC ADULT COMIC

WOMER

マザーセカンド

SECOND

RIROLAND PRESENTS

DRAMATIC ADULT COMIC

MOJER

マザーセカンド

SECOND

RIROLAND PRESENTS







あ！また
『MAJOR』の
同人誌だ！

うーん…
でもどうしようか
なあ…

お金
無いし…

どうせ僕
出てないし…

前書き

どうもこんにちは、RIROLANDの里見です。前回の『MOTHER』に引き続き
なんと！今回も『MAJOR』本です。

一応前回の空鶴マンガで妄執は全部出し切ったと思ってたんですが…
いろいろ考え始めたら止まらなくなってしまいまして…続きを出す事になりました。
前回空鶴マンガに清水さんがほとんど出なかった心残りもありましたし。
(本当は前回の補完から描きたかったんだけど…さすがにムチャ過ぎ…笑)

しかし今回も長ーい！本当はもっと薄い本でサクッと出すつもりだったのですが、
やりたい事詰め込んでいったらモリモリと長くなってしまい…結局前回よりも長く…(汗)
そのしわ寄せで里見マンガパート無くなってるし(笑)

あと前回の反省から今回主線を鉛筆にしてみました。ペンを入れるとどうも画面が
おとなしくなって…「背徳感」とか「淫靡さ」が減少するような気がするもので…。

あと！今のうちに謝っておきます。今回前回以上にヒドイ事しちゃって本当すみません。
清水さんと桃子先生、ガチで好き過ぎなモンで…自分でも愛が止まりませんでした(泣)
マジメな『MAJOR』ファンの人、本当ゴメンナサイ。愛ゆえの熱暴走だと思って
許してください…。

まあ色々書いてきましたが、楽しんで頂ければ幸いです。
それではまた後書きで。

CONTENTS

- 07 『MOTHER SECOND side A』 空鶴
- 31 『MOTHER SECOND side B』 空鶴
- 57 『MOTHER SECOND ANOTHER』 里見ひろゆき・空鶴

表紙・空鶴 裏表紙・里見ひろゆき



あたしの身体
こんな日にして

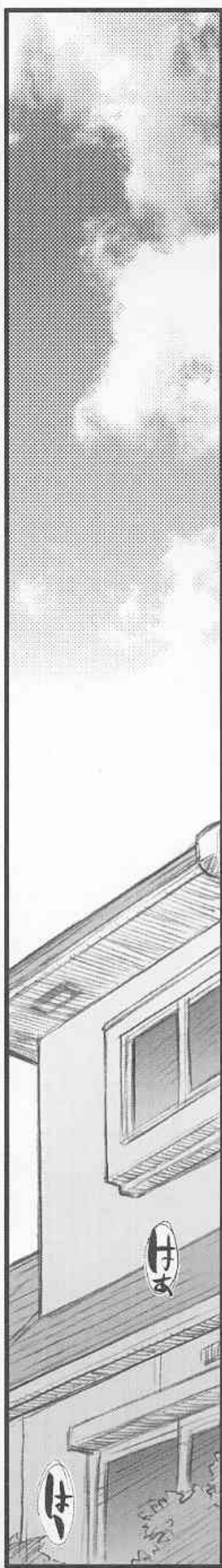


いきなり…
いなくなるなんて



ほ…

本田あ……





MOTHER SECOND

SideA

空鶴





本田が

……

ドクン

ほ……



カッパッ

ドクン

……







あー
スッキリした

でも
一生口は
きかない！



へっ…
清水のヤツ

ムリ
しやがって…

ぽた

ぽた

ぽた

ぽた



本田：
アイツ…

でも…
悪いのは本田
…なんだから



あーあ…
やっちゃった
…



…んっ

しゅっ



また
昔みたいに

…ほんだ

しゅっ

本田あ！

抱いて…
抱いて欲しい
…!!

しゅっ



随分…
男っぽく
なってた…

…あっ

んはっ

はっ

しゅっ

しゅっ

ギヤアアア〜!!
ほほ、本田っ

ははっ
何だよ一人で
オナニーか?



呼んだか
清水?

ぴぎっ

ドキーンッ



やっぱりオレに
抱いてもらいた
かったんじや
ねーか!

カッ



誰も：
お前の事
なんか：

ぎゅ

...

はっ

はっ



はっあ

やあああつ

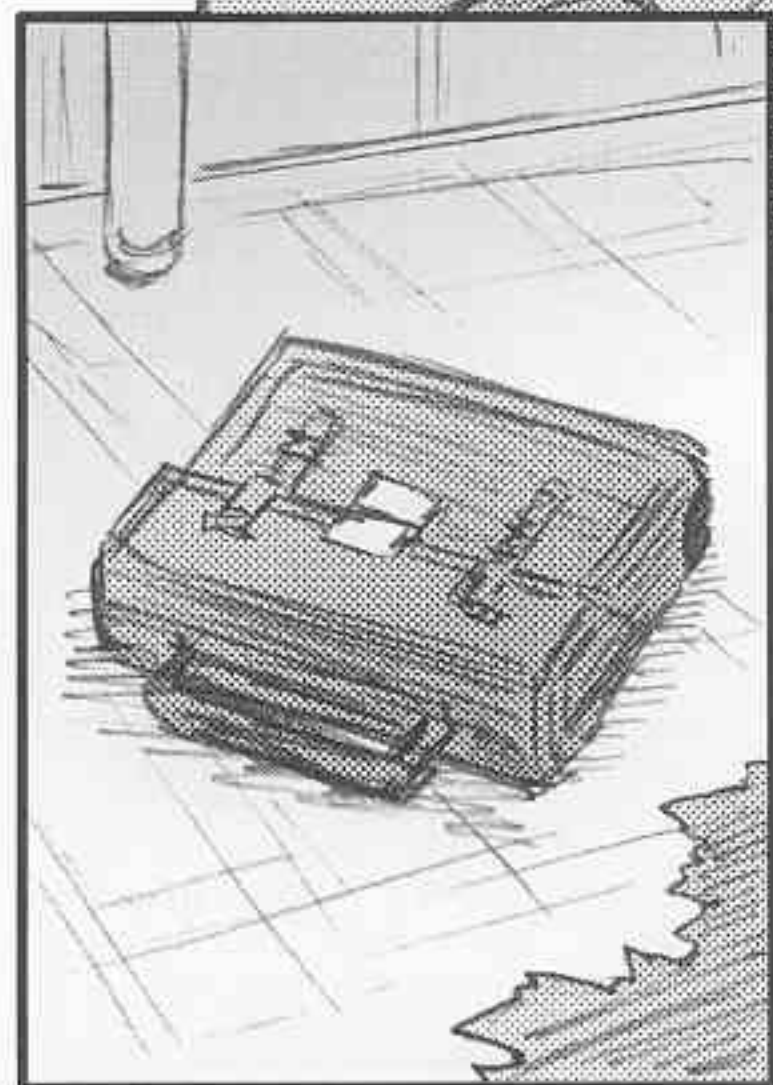
やつ

ば、バカッ
本田っ…

何すんだよ
…やめっ

そんなトコ
触るなあ…!







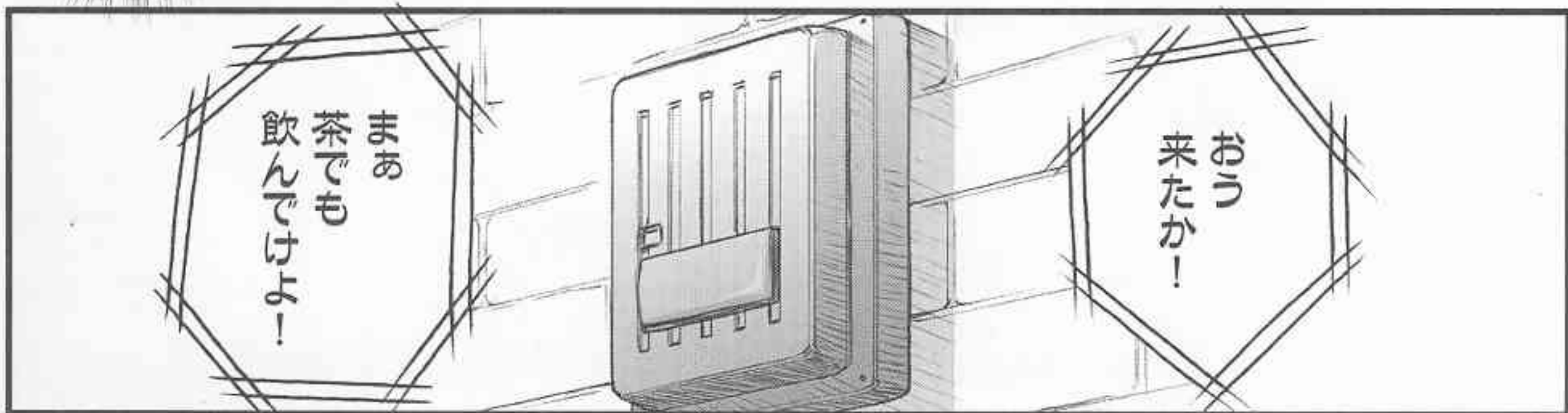
… 本田のヤツ

私のかばんを
拾ったから
家まで取りに
来いなんて…



大丈夫
大丈夫

かばんだけ
受け取ったら
すぐに帰るんだ



おう
来たか！

まあ
茶でも
飲んでけよ！



お、
おう…

…



どした？

早く
上げれよ



ふっ
ふざけんな！

さっさと
かばんだけ…





!?



オレの
かーさんなら
ずっと…



アハハ
アハハ
アハハ
アハハ





…なっ

何だよ
本田…
コレは!?

ん?
会った事
あるだろ?

オレの
かーさんだよ





憶えてるだろ
かーさん

昔クラスメイト
だったよ
清水だよ



!!



ぬぬ

ぬぬぬぬ



んんんー
（吾郎！
止めなさい！）

大丈夫だよ…
かーさんの身体が
どんなにスケベか

清水にたっぷり
見せ付けてやろう
ぜ！

すごい…
本田の…
アレが…

んんっ

んっ

あんなに…
深く
刺さって…

本田の
かーさんも…

すごい…
悦んでる…

濡れてる…



思い切り：
刺し貫かれ
たい……

わ、
私も……
アレで



ふあふあ

自由な体位で……
もつと乱れて
みせてよ



ほらかーさん……
縄をほどくぜ



もっ……

ぐ……
ぐろおあつ

もつと深く
えぐってえ
えっ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

だめえっ
腰がつ…

腰が止まら
ないのおっ

本田の…
お母さん……

ほ
あ
あ

み、
見ないで…
清水さん…

私達の…こんな
浅ましい姿
見ないでええっ

何
言ってんだよ
かしさん

ひっ

4年間…
オレに抱かれ
続けて

こんなに
エロい身体に
なったくせにっ

ひんっ

ギョッ

んんんん
んんんん

私は…息を止
犯されて
悦ぶっ…

いやっ
母親ですわっ

へへっ
そのいやらしい
かしさんに

中出しだ！

ぬ

ぬ

ぬ

ヨルマン

おまんこの奥に
当たっててみるんか

ぬるい

ドゥ
ドゥ
ドゥ

ドゥ
ドゥ
ドゥ

ドゥ
ドゥ
ドゥ









4年ぶりの
オレのチンコだ

ウツウツ

かじり

本田の…
オチンチン…

もうガマンの
限界みてーだな



ハハッ!
いくらガマン
してたからって

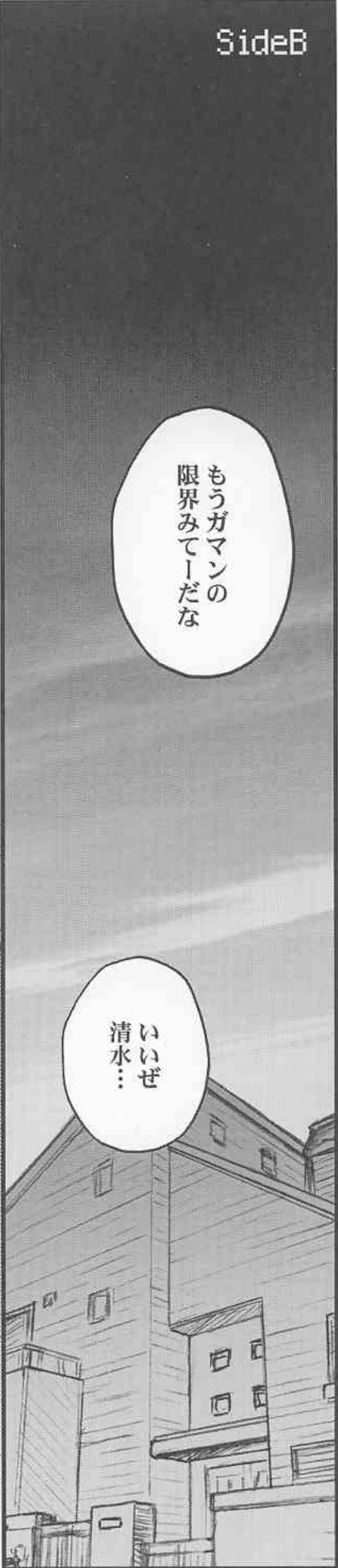
んっ
んんっ

ガツつき過ぎだぜ
清水!

ガッ
ガッ
キッ
キッ

4年ぶりの…
オチンチンの
味……

いいぜ
清水…





32





吾郎はこの…
幹の横を
甘噛みされるのが
好きなの…

ふあいいい…
こ、こーれふか？

かきん

はむ

もむ



そう…
そしたらもっと
こういう風に…

ふあ…
ふああい…

あー

かきん

かきん

かきん



ん…
思った通り
サイコーだぜ…

かーさんと…
清水に挟まれての
クチマンコ…

クク…
もうイク…

出ちまう！

かきん

かきん

かきん



んっ

ぶわあっ

わっ

わっ

わっ



久しぶりの…
本田の味…

えっ

わっ

ああ…



お…
お母さん…

清水さん…

し…

はー

は

…

は

は



清水さんの
口の中…

とても…
美味しい…

んっ…

お母さんの
中だって…

お…

れろお

ちゅば

ちゅば

果物みたいに…
甘いです…

ほら…
こんな所にも
吾郎の精液が…

ああん
お母さん…

えろお

私にも…
下さあい…



さすがかーさん
教えるのが
上手いね

もと保母さん
だけの事はあるよ

ちゅー

んっ



調べて
やるよ

4年間で
清水の身体が
どう変わったか

ほ、
本田…



トクニニ

おんおん

トクニニ



あっ…

トクニニ

おんおん

トクニニ



かはあつ



4年ぶりの…
本田の
オチンチン

びるびる

びる

すご…
太くて…
熱い…



私の
お腹の中

焼いた鉄棒で
カキ回されて
……

頭の中まで…
グチャグチャに
犯されてるっ

ハハッ！身体は
でかくなったのに
マンコは昔と
変わってないな

相変わらず
キツキツだぜ！

あつ熱い

ほ…
本田あ……

ズググ

ズググ

オマンコッ
出し入れっ

ズググ

おまんこも
おまんこも……

ズググ

ズググ

やあっ

ズググ

あんっ

ズググ



何だよかーさん
モノ欲しそうな
顔してさ

安心しろって



親父と真吾の
いない今日は

一晩中…
たっぷり犯して
やるからさ♪



だから
今は

清水を教育するの
手伝ってくれよ



清水さんの顔…
あんなに
蕩けきって…

私だってもっと…
もっと吾郎に
抱かれないのに…



一晩中
……

ひ…



はあああ

ズツ

ズツ

お…

ふふっ

ゲッ

ゲッ

おかしく
なっちゃう
ううっ

ほ…
本田あ

ズツ

私もっ

ズツ

私も一晩中
犯してえっ

ズツ

ズツ

へへっ
いいぜ…

かーさんと
二人並べて

朝まで
たっぷり…
犯してやる!



はむっ

んっ

ぐちゃる

くちゅ

んっ

はむっ



清水さん…

一緒に…
ケダモノに
なりましょう…

お母さん…

かぼ

か



ホラ清水…
欲しがってた
精液

4年ぶりに
臍^{なか}内出しだ!

た

た

た

た

…なか、
臍^{なか}内に…

本田の精液…
出される
射精される

ヨッ…

4年ぶりに…
膣内なかで感じ
られる……

出して
本田あつ



その後、私と
本田のお母さん…
桃子さんは
何度も何度も膣内に
射精されました

本田の精力は
底無しで…
オマンコだけでなく
口の中や顔にも
たくさんの精液を
出されました

桃子さんはお尻の穴まで
何回も犯されて…
たくさんの精液を
注ぎ込まれていました

身体中精液だらけに
なりましたが…
シャワーも浴びさせて
もらえませんでした

そのかわり…
私と桃子さんで
お互いの身体を
何度も舐めあって
キレイにしました

オマンコやお尻の中に
出された精液も…
全部吸って飲みました

桃子さんは2回、
私は多分4回くらい…
気絶をしました

ほ…本田…
これから毎日…
こんな事を…?

ああもちろん
…イヤか?

…
イヤじゃ…
ないけど…

へへっ
相変わらず清水は
スケベだなあ

マンコだつて
もうこんなに
ヌルヌルにして…

バツ、バカ!
全部…お前の
せいなんだぞ…

あ…だから
止める…
まだ…イッた
ばかりで…
んっ…ンンッ…

へへっ…
いい感度だぜ清水…
これから毎日…
見た事の無い世界へ
連れて行ってやるよ

お前とかーさんは…
永遠にオレの
性交用奴隷だ…

清水さん…
よろしくね

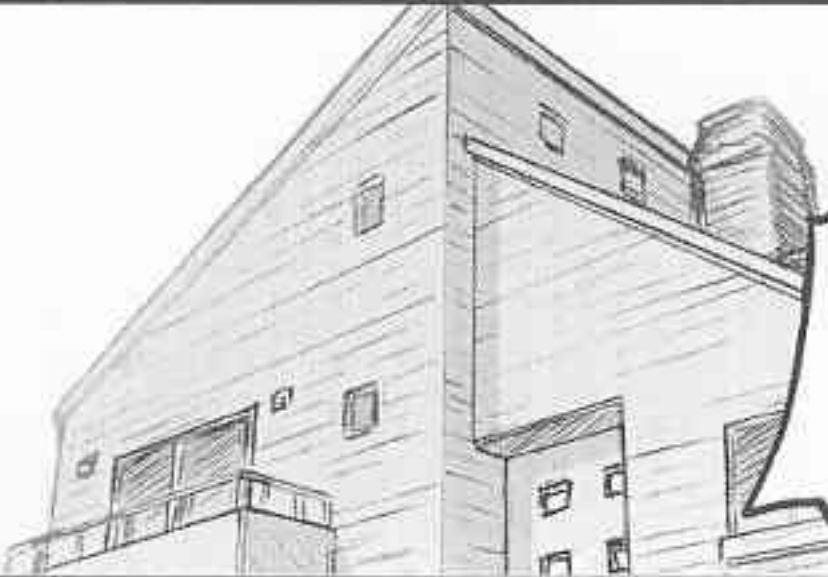
はい…
お母さん…



へへっ…
まあな



もう！
早くちゃんとして
謝った方が
いいよ！



ああっ



本田っ

へへっ…
学校じゃ絶交してる
ハズの清水が…
実はオレの肉奴隷だ
なんて
知ったらみんな
驚くだろうな



ほ…
本田あつ

深く…
刺すっっっ

あつ



あつ

あつ



アッ

ははっ

すっかり
普通のの…



し…
仕方ないだろ

外でお前と…
喋ってたらっ

!!!

!!!

いつスイッチが
入るか…
判らないんだから
…



ズニッ

いや
それ以上の
スケベに
なったな清水

そ、
それは…
本田が毎日っ

ズッ

ズニッ

ムチャばかり…
させる…から…



ビクッ

はああ

ビクッ

おまんこに…
出されてる…



ビクッ

んああっ
本田あっ

それって例えは
こーゆー事か？

ビクッ

ビクッ





はあああ
ああんっ

はっ



ガッ
ガッ
エ

ガッ
ガッ



私の
子宮の奥まで
犯してるっ

犯してるっ

ごっ
吾郎の…
おちんちんっ



手に…
吸い付く…

桃色に…
熟れきった肌が

あ
た
ち
の
カ
ラ
ダ

かーさんの
ムツチリ
包み込む様な
この肉感
は
また格別だぜ…

かーさんの

清水の…
瑞々しく締まった
身体もいいけど

そっ…

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ



かーさんの
ココも

!?

いいぜ
清水...

そいつで
犯すんだ

ぐにゅー

びるびるり



清水さん

し...



ほ...
本田あ...

本当に...
これで...



ごめん...
な...さい...

お母さんっ...

ぐにゅー



うあああ...
お母さんの...
おまんこから

清水さんの...
おちんちん...

吾郎の...
おちんちん
と...

わ...私の
おまんこ...
カキ回して...

本田の...
チンコ...

わたしっ

串刺しに...
されてっ...

んっ...
こりや思った
以上に強烈だ

かーさん!
清水!
一緒にイケよ!

は...
は...
は...
は...
は...
は...

は

うわっ

うわっ

うわっ

うわっ





あーあ
かーさん
気絶しちゃったよ



54



...そっか

空鷲的

<作品解説>

こんにちはー。お疲れ様です。空鷲です。
「MAJOR本」第2弾、何とか完成しそうです…(泣)
最初は軽めの薄い本で出す予定だったのに、気付いたら
いつも通りの本になってる~!?…色々大変でした~。
今回もマンガの話の方は、里見っちにやってもらい
ました。てゆうか長いよページが!(笑)空鷲的に過去
最長のページ数。…大丈夫かなあ。

MAJORアニメ、とう
とう中学編が始まった~
ですね!…でも…でもなん
だか微妙(汗)何でキャラデ
が変わったの…?リトル編
の絵がかなり好きだった者
としてはさあ…。別に変わ
った絵が悪い訳ではないん
ですけど、前の絵が好みだ
ただけにねえー…。でも
その内慣れるさ!うん。
…あと小森の声は変わって
ほしくなかったなあ(泣)
いやいや、これから良くな
っていく事を期待してま
っせー!

でわでわ、また!

2005.12 空鷲

←こちらは我等が乙H i ME、
アリカ嬢です。菊池美香…
良すぎる!ウメコ~。

この本と同時発行！ (していると嬉しいナ♪)
舞-乙 HiME 中心よろず本『想』 (おもい)。

アリカの元気可愛さっぷりにどっぴり
ハマった訳ですが…。
個人的にゲストキャラで木下あゆ美の
参加希望！

MOTHER ANOTHER SECOND

ピチャ…チュツ…クチュツ…。

暗い部屋の中からくぐもった水音が聞こえる。人影が3つ…その中にショートカットの少女が一人おり、2人の少年のペニスを交互にしゃぶっている。気の強そうな瞳とその端正な横顔は明るく凛々しいものだったが、陰茎に這わせるその舌使いは…まるで娼婦のように男の悦ぶ場所を的確に責め立てていた。

「し…清水先輩っ…ホントにこんな事してもらっちゃって…

良いんですか…？」

「茂野先輩に…バレたら殺される…」

二人の少年…宮本と矢部が顔を真っ赤にしながら清水に訊ねた。ピチャツ…透명한唾液が糸を引き、清水が名残惜しそうに口を離す。

「アハハ…良いのよあんなヤツ。今日は…あなた達の可愛らしいおちんちん、たつくさん食べさせて欲しいの」

清水はうっとりした表情で2人の若々しいペニスを見つめた。

「し…清水先輩…。」

三船東中学野球部エース、茂野吾郎の彼女清水薫。以前から憧れとほのかな恋心で見つめていた彼女が、野球部の部室で自分のペニスを啜えている…。その異常なシチュエーションに二人ともみるみる高まっていった。

はもお…。再び清水の口腔内に矢部の未成熟な陰茎が深々と呑み込まれる。そしてそのままゆっくりと前後に動かされる愛らしい顔。たっぷり出された唾液が矢部のペニスに絡まり、ねっとり糸を引く。

温かく、そして柔らかい舌に包まれ…矢部の下半身に電流が走った。

「…で、出ますっ…。」

このまま出すのはマズイ…。一瞬矢部は考えたが、その圧倒的な快樂の波には抗えなかった。

ドクツ…ドクンツツ…。憧れの先輩の口の中に間断無く吐き出される矢部の精液。まだ一回目なのでその量は多く…そして濃い。

しかし清水は口を離さず、口腔内でその全てを受け止めた。

「バ、バカッ矢部！何クチの中に出してんだよ！」

宮本が慌てて清水にティッシュを差し出す。射精直後の喪失感で呆けている矢部。無理も無い…まだオナニーを憶えて間もないのにこれほどの体験をしてしまったのだ。尊敬している先輩の彼女に…口内射精…。

まだ腰の奥に甘い痺れが残っている。

しかし清水は嫌がる様子も見せず、そのままゆっくりと矢部の精液を飲み下した。驚く二人。

「フフフツ…。矢部君の精液…あんまり多いんでちよつと驚いちゃった」

普段の乱暴な口調とはうって変わり…媚びるように喋る清水。唇の端に付いた精液を濡れた舌でちろりと舐め取る。

「どう…宮本君も私の口の中に出したい？それとも…この顔にかきたい…？」

うっとり…蠱惑の表情で問いかける清水。

「し、清水先輩…。」

がむしゃらに清水の顔にペニスを押し付ける宮本。昂ぶり過ぎ…自分でも何をやっているかも分っていない様だった。清水はそんな宮本の肉竿もゆっくりと口に含み、矢部と同じように

丁寧な愛撫を加え始める。

まだ幼いが…その分熱く硬い宮本のペニス…清水の秘唇もじつとりと湿り気を帯び始めていた。いつの間にか回復した矢部が後ろに回り、清水のスカートをゆつくりと捲り上げる。

「ん…矢部君…。私のスカートの中に…興味あるの？」

ほの暗いスカートの中に顔を埋めた矢部に清水が問いかけた。恥ずかしさと気まずさの為、無言で清水の脚をかき抱く矢部。ソフトボールで鍛えた先輩の両脚はみっちりとした量感を持ち、矢部の手のひらにしつとりと吸い付いてくる。うつすらと汗ばむ、白く…張りのある肌。そしてその付け根を覆い隠す濃紺色のブルマー。矢部はその化学繊維の上から…憧れの先輩の尻肉を揉み上げた。

「あ…はああ…。や…やべくん…。」

予想外に積極的な矢部の責めに清水が一瞬たじろぐ。その様子に気を良くした矢部はブルマーの上から清水の股間に吸い付いた。両手で清水の太ももを抱え込み、布の間から舌を差し込む。スカートと…その中の繊維に籠るうつとりするような甘い匂い。

矢部は我を忘れ憧れの先輩の股間の隙間に舌を入れ続けた。そしてそのたどたどしい愛撫が…清水の官能を急速に昂ぶらせていった。

「し、清水先輩…。」

急に激しくなった清水の口腔愛撫で宮本が半泣きの声を上げた。ガチガチに強ばったペニスは先走り汁が溢れ…いつ暴発してもおかしくない。先ほどの矢部のようにクチの中に出してしまおうか…それとも…。

「う…うわああ…。」

宮本は臨界点を突破したペニスを清水の口の中から引き抜く

と、そのままその整った顔に向かって精液をぶちまけた。大量の白濁液が湯気を立てて清水の顔に降りかかる。艶やかなショートカットも…形良く通った鼻も…ふつくと柔らかな頬も…精液でドロドロに汚されていく。

しかし清水は満足そうな笑みを浮かべると、ゆつくりとその汚液を掬い集め…美味しそうに嚥下した。

一方矢部も、早くも2回目の絶頂が近い事を感じていた。胸いっぱい吸い込む清水先輩の甘い匂い。ブルマーの奥から滲み出るトロトロした淫蜜。

宮本の精液で顔をギトギトにした清水が矢部に囁いた。
「ブ…ブルマーに…思い切りかけて…。」

矢部は堪らずその淫惑的な布地に陰茎を擦り付けた。ムチムチと形良く張り詰めた尻肉が…矢部の陰茎を優しく刺激する。

「は…はあああ…。清水…先輩…。」
矢部の脳髓に再び電流が走った。

ドクッ…ドクドクンッ…。濃紺色のブルマーに矢部の白濁液がかかり、強いコントラストを描く。2回目だが…量はまだまだ多かった。ムワツとした精の匂いが部屋の中に立ち込める。その様子を見ていた宮本も、おずおずと清水のブルマーに手を伸ばした。

「なに…？宮本君も…私のブルマーにかけたいの？」

「ち、違います…。」

慌てて頭を振る宮本。

「み、見たい…。先輩の…。」

必死に思いを吐露した後で、宮本は真っ赤になってうつむいた。清水がその様子を可笑しそうに見ている。

「ふふ…見るだけよ。でも今日は…挿れちゃダメだからね」

その言葉に驚く二人。ならば…いつかは挿入まで…？



矢部の精液でドロドロになった清水のブルマーを、宮本が無言で下着ごと降ろす。回復した矢部も横から真剣な眼差しで見つめている。その濃紺色の布地の下から…憧れの先輩の真っ白い尻肉があらわれた。

つやつやと光る丸い尻は、まるでゆで玉子の様にふるんと震えた。息を呑む二人。ぴっちり包み隠すものが無くなった為、そこはより一層のポリウムをもって二人の目に飛び込んでくる。

四つん這いになった清水は…挑発するように尻をユラユラと左右に振った。

ゴクツツ…静寂の中、唾液を飲み込む音がはっきりと聞こえた。

結局その後矢部と宮本は2回づつ、清水の口と顔、そして尻に向けて射精した。顔も制服もスカートも…そして生尻までも精液でドロドロになった憧れの先輩を見て…二人はいつまでも勃起が収まらなかったが、清水は時間だからと2人を帰したのだ。2人は名残惜しそうに…しかし今日の夢のような体験を反芻しながら帰って行った。

そしてその時…隣のソフトボール部の部室から、一人の長身の少年がゆっくりと姿を現した。

ガチャッ！野球部部室のドアが突然開いた。咄嗟に身体を隠そうとする清水。

しかし少年は驚く様子も無く部室内に入ってきて来ると、乱れた格好の清水を見てニヤリと笑った。

「へへっ。ナカナカの淫乱センパイっぷりだったぜ清水」

「本田…！」

入ってきたのは野球部のエースで清水の幼馴染、茂野（本田）吾郎だった。

「…っ！何言ってるやがる…。全部…お前がやれって言ったんじゃ

「ねーか！」

「まあお前のエロい顔は全部このデジカメに撮つといたからさ。これからオレの家で……ゆっくり見ようぜ」

「……………」

話をはぐらかされ、清水は口籠もる。

「……………きよ、今日は……お前の母さん……桃子さんは？」

「ああ……、今日は家に誰もいねーんだ。お前に見せたいものもあるし、帰ったら夜までじっくり……ハメてやるよ」

肩に手を回す吾郎。しかし清水は真つ赤になりその手を払いのけた。

「バ、バカッ！私は……そ、そんなつもりじゃ……」

「へっ……ムリすんなよ。あの2人にはマンコに挿れさせてないからな……もう相当、疼いてんだろ？」

「あ……バカ……止める……………」

吾郎は清水の股間に指を挿し込み、丹念な愛撫を加える。予想通りそこはじつとりと濡れて……肉芽も熱く勃起していた。吾郎が摘もうとするが愛液でヌメリ上手くないかない。

「ふあ……やああ……ほ……ほんだああ……………」

腰がくだけ、へたり込みそうになる清水を吾郎が支えた。「とりあえずシャワー浴びて着替えて来いよ。身体中からザーメンの匂いがプンプンしてるぜ？時間も無えし、急いでな」

吾郎はチラリと時計を見て……荒く息をついている清水に言った。

清水が吾郎の性交用奴隷になってから数週間が過ぎていた。

彼の義理の母親であり性交用奴隷でもあった桃子との濃厚なセックスを見せ付けられ……清水は進んで吾郎の性的調教を受ける約束をしたのだ。

それからほぼ毎日、清水は吾郎に抱かれ続けた。家で……屋外で……そして学校で……。もともとソフトボール部部长だった清水

の肢体はみるみる吾郎に馴染み……今ではクリトリスだけではなく膣内感覚でも充分達するほどの淫らな女に調教されていた。今日も「教育」の一環として、野球部の後輩2人のフェラチオを強要されたのだ。

そんな無茶な要求を拒めないほどに……淫虐の炎は清水の心を焼いていた。

幾度となく訪れた吾郎の家……。プロ野球選手の父を持つ彼の家はかなりの大きさだった。玄関をくぐるだけで清水の頭にス イッチが入り……スカートの中が濡れてくる。学校のシャワー室で念入りに流したはずだから先程の余熱ではなく、新たな愛液が湧き出ているのだ。

顔を赤らめた清水を見て吾郎は小さく笑った。

「な、何だよ見せたい物って？」

リビングに入るなり清水は尋ねた。本当は一刻も早く抱いて欲しかったのだが、ガツガツしてると思われたくない為わざと違う話題を振る。吾郎はそんな清水の行動パターンを知ってか知らずか……彼女の問いには答えずニヤニヤしながらビデオデッキの操作を始めた。

「ん？……何か面白いビデオでもあるのか？」

「ああ……さっき撮ったお前のビデオもイイけど……これもなかなかモノだと思うぜ？」

満足そうな笑みを浮かべながら吾郎がテレビのスイッチを入 れる。そこに映し出されたのは……全裸の女性が和室で2人の少 年に責められているものだった。

女性は……清水の良く知っている吾郎の母桃子。そして2人の少年は幼馴染で現在クラスメイトの……沢村と小森だった。

『ふうーっ……ふうーっ……ふうーんっ……』



MONY



『本当ショックだなあ……本田君のお母さんがこんななスケベだったなんて。オレリトルの頃からお母さんに憧れていたんですよ?』

全裸の沢村が嬉々とした表情で桃子の熟れた身体をまさぐっている。全裸の桃子は……清水が初めて吾郎と桃子の関係を知った時と同じように目隠しとギヤグポールを噛まされ、縛られてベッドに転がされていた。場所は清水はあまり使った事の無い茂野邸の奥の和室のようだ。

カメラは固定だったが絶好の場所に配置されているらしく、部屋の様子をはっきりと写している。

桃子は随分前からこの状態で弄ばれた様子で、身体中が彼女の汗と唾液でテラテラと光っていた。性器もぐっしりと濡れそぼり、恥毛がべっとり張り付いている。

ビデオの中から……部屋の中に立ち込める強烈な淫臭が漂ってくる様だった。

「ほ、本田……これって……」

「ん? ああ……見たまんまだぜ。男がオレだけだとしてママンネリになるからな。沢村と小森に協力してもらったって訳さ。初めての時はオレも入って3人がかりでかーさんをメチャメチャにしてやったんだけど……この時はあいつらに任せてみた」

事も無げに言う吾郎だったが、明らかにその表情は上気していた。股間も……ズボンの上からそれと分るほどに大きく屹立している。

先輩奴隷の桃子が……クラスメイトの沢村と小森に犯されている……。この加虐的な光景が清水の官能の炎をより熱く燃え上がらせた。吾郎に調教される際、桃子と並べて犯される事も多々あり、清水は幾度となく桃子と肌を重ねていた。ある時は清水が双頭のデイルドーで桃子の熟れきった身体を犯し、またある時は桃子が清水の弾けるような身体を縛り上げ、吾郎と2人交

代で遊ぶ……。吾郎が桃子の口の中に吐き出した精液を、口移しで注がれた事もある。

そのとき憶えた桃子の甘い唾液の味を……清水ははつきりと思いで出していた。

『さ、沢村くん……もう止めようよ……』

小森が止めようとするが……彼の股間のモノもはちきれんばかりに大きくなっている。

『今更何言ってるんだよ小森……お前だってチンポそんなに大きくしてさ。オレは……マンコの中に挿れたいんだよ』

『ふうーっふうーっ……ふうーっ……』

言葉を出せない桃子が、ゆっくりと頭を振って精一杯の意思表示をする。しかしぱっくりと開いた秘唇からは、新たな蜜がトロトロと溢れてきていた。

沢村はガチガチに膨らんだペニスを桃子の陰唇に何度も擦り合わせた。恥毛がシャリシャリと擦れ、愛液がねっとり絡みつく。肥大したクリトリスを刺激する度に桃子の紅潮した身体が小さく震えた。

『これだけ濡れてればもう良いですよね……おばさんのマンコ……たっぷり犯してあげますよ』

沢村が桃子の耳元で囁き、ずぶずぶと若い肉棒を熟れた柔肉の中に埋めていく。桃子は必死に頭を振っているが、それは快樂の波濤を必死に耐えている様であった。

本来ならば目を背けたくなるような陰惨な光景だったが、清水は瞬きすら忘れたようにテレビを見つめていた。紅い官能の炎が……黒く変わる。吾郎の前だという事も忘れ、清水は無意識に自分の性器をまさぐっていた。下着の上からでもはつきりとするほどに熱を帯びたそこは……早く桃子と同じ事をしてもらいたいと意思表示をしている。



「ほ…ほんだあ………」

潤んだ目で吾郎を見上げる。吾郎は何も言わず、清水をソファーに押し倒した。

清水の口腔内を吾郎の舌が荒々しく蹂躪する。果物のように甘酸っぱい清水の唾液…吾郎は清水と自分の舌を絡めながら、その全てを吸い尽くそうとしていた。

はだけた制服の中に吾郎の手が入り、小振りながら形の良い乳房を大きな手で揉みしだいた。すでに硬くしこった乳首もキリキリと摘み上げる。

「ほんだっ…ああっ……。いつもより…激しい……」

清水が呼吸もままならない様子で言った。確かに吾郎のセックスは荒々しいものが多かったが…今日の愛撫はそれに加え暴力的な感じを受ける。しかし先程の野球部部室でのフェラプレイと桃子のセックスビデオの為、清水の性感は急速に昂ぶっていった。

まどろっこしそうに清水のスカートを剥ぎ取り、下着を降ろす。すでにそこはベットリと濡れ…パンツに楕円の染みを作っていた。

「本田あっ…早くっ…早く私の…私の中につ………」

耐え切れずおねだりをする清水。その言葉に応えるかのようには吾郎はいきなり清水の膣内に挿入した。今日初めての…膣内感覚。いつも以上に異常な体験の連続が…清水の性器を熱く火照らせていた。

清水の口を吸いながら激しく動く吾郎。いつもなら…清水が達するまでその身体を弄び、そのあとゆっくりと射精するパターンを好む彼だったが…今日はまるで初めてセックスを知った少年のようなガムシヤラな抽送だった。

しかし興奮している清水はそれに気付かず、吾郎の動きに合わせて腰を振っている。

「あつ……あつ……あああつ……あつ……あはああつ……」
奇妙なリズムで清水の嬌声が漏れる。それに呼応するかのよ
うに……リビングの中に淫猥な水音が響いていた。吾郎の背筋を
……快樂の稲妻が走り抜ける。

「クツ……出るっ……」
普段のタフさからは考えられない早さで吾郎は清水の膣内に
熱い精を放った。清水の肉壁に大量の精液が叩き付けられる。

「ほ、ほんだあつ……」
合わせるように清水も叫び、無意識に吾郎に自分の両足を絡
みつかせる。吾郎の精液を、自分の一番深いところで感じてい
たかった。

「はあ……はあ……はあ……」
荒く息をつく吾郎。

「かーさん……」
灼熱の快樂に喘いでいた清水だったが……ハッと我に返り吾郎
を見上げた。

彼の視線は清水を見ていなかった。彼が食い入るように見て
いるのはテレビ……

今まさに母親が親友に刺し貫かれてる映像だった。

『さつ……さつ……沢村くんっ……。もつと……もつとお……』

『へへへっ……何ですか……？もつと……どうして欲しいんですか……』

……本田の……お母さん……？』

『おばさんの……おばさんのアソコを……もつと深く……』

『クツ……もつとはつきり言って下さいよ……』

『おまんこツ……桃子のおまんこツ……もつと深く……深くエグって
えええっ』

いつの間にか縛めを解かれた桃子がバックから犯され大きな
嬌声をあげ泣いている。上気した身体はピンク色に染まり、全
身から匂い立つようなフェロモンが出ていた。





ブチュッ！ブチュチュブツ！沢村の抽送と共に桃子の陰唇から大量の白濁液が噴出してている。もうすでに…たつぷりと膈内に出された様だった。

そして桃子を刺し貫いている沢村の横で、小森が必死に自分のペニスを扱っている。

『はあっ…はあっ…はあっ…本田くんの…お母さんっ…』

言葉に出した事は無かったが、小森も沢村と同じくリトルの頃から吾郎の美しい母、桃子に憧れていたのだ。しつとりした包み込むような優しさと、たまに表れる凜とした厳しさ。幼稚園で保母をやっているというのを知った時は納得したものだった。思春期になり淫らな想像をした事も何度かあったが、その度に激しい罪悪感に襲われた。

そんな桃子が…元リトルのチームメイトである沢村に犯されている。脂の乗った肌は艶やかに汗を弾き、名前の通り桃色に染まっている。そして…喜悦の涙を流し声を上げる桃子の顔は…今までで一番美しかった。

『おい小森…お前…何やってんだよ…』

自慰行為をする小森に気付き、沢村が声をかける。

『あっ…でもほ、僕は…』

訳の分からない罪悪感で後ずさる小森。しかし陰茎は収まる事無く固く勃起したままだ。

『確かに前日も…オレと本田がメインで小森は何もしてなかったもんな…。クツ…オレがもう一回イクまで…口でしてもらえよ…』

沢村が腰の動きを止めずに言う。桃子は四つん這いで小森に近づき…愛しそうに彼のペニスを見上げた。

『小森くん…』

桃子はそのぼってりとした唇をひらき、小森のペニスをぬるりと呑み込んだ。散々喘いでいたはずだが桃子の口の中は温か

く濡れ…ねつとりとした舌が小森のペニスを柔らかく包み込む。
『本田君の…お母さんっ……』

未知なる快感…。親友の母親の口の中は小森の陰茎を優しく刺激し、満遍なく絡み付けてくる。小森は耐え切れず…神聖な桃子の口に熱いマグマを吐き出した。

大量の精液が桃子の口を、そして顔を汚す。小森はそのままくたくたと崩れ落ちた。

『へへっ…小森はだらしねエな……』

ピークを迎えた沢村がより一層激しく腰を振り始めた。巨大な白桃のような尻が淫猥に蠢き…息子の友達の肉棒を搾り立てる。尻の割れ目の上にある笑窪を弄ると、桃子は一際高い声を出し悶え狂った。

『クツ…っ…おばさんっ…今度は…かつ…身体に……』

『はあっ…んっはあっ…んっはあっ…んっ……いいわ…沢村くんの熱い精液…私のっ身体に…ドクドクかけてええっ』

ビュッ！ビュググッ！直前で抜かれた沢村の陰茎が桃子の身体を精液で染め上げた。とても2回目とは思えない程…大量の精液。その鼓動を感じたのか快楽の余韻なのか…桃子の身体がビクッビクンツと震えた。

母親が他人に犯される映像を見ながらのセックス…想像した以上に吾郎は興奮していた。先程の部室での清水のフェラチオもそのような効果を狙ったものだったが、母親である桃子の痴態はそれ以上に彼の官能を刺激していた。しかも犯しているのは幼馴染の沢村と小森なのだ。吾郎は…自分で計画した事ながら…暗い愉悦の泥土にどっぷりと嵌っていた。

ゴポッ…。一回目の精液が清水の体内から溢れ出てきた。

「ほ、ほんだあっ……」

抱かれていながら…仲間外れにされたと錯覚した清水が吾郎にむしゃぶりついた。母親が親友に犯されるシーンを見て…吾郎のペニスは清水の膣内で剛直を取り戻している。そして清水も…沢村と小森に同時に抱かれる桃子を見て…新たな愛液がジクジク湧いてくるのを感じていた。

再び始まる吾郎の抽送。手の届かない、テレビの中の母親を犯すかの様な激しい動き。清水も…クラスメイトに犯され喜びの涙を流す桃子に対して、奇妙な羨望意識を持ち始めていた。抱かれない…。私も…複数の男の肉棒で…刺し貫かれない…

いつの間にか2人とも全裸になり、獣の様にお互いの身体を貪りあっていた。

ピデオの中では小森が桃子に挿入していた。豊富な乳房に顔を埋め、鋭く尖った飴色の乳首を責め立てている。沢村ほどのテクニクは無い様だったが、野球で鍛えた鋭い腰の動きは確実に桃子の快楽中枢を焼いていた。

『…っ…っもりくんっ…奥まで…奥まで突いてるっ……』

桃子が髪を乱し悶え狂う。口端に啞えられた数本の髪の毛が何とも言えない艶っぽさを演出している。

桃子の膣口からは泡立った愛液と精液がゴポゴポと逆流し、シートの上に水溜りを作っていた。恥毛もアナルの周りもベツトリと濡れそぼり、桃色に上気した身体中…汗と精液で化粧が施された様にドロドロ口になっていた。熟れきった身体を打ち振る度に、様々な滴が辺りに飛び散っている。

『おばさんっ……出ちゃい…ますっ……』

『はああっ…っ、小森くん……いいわ…濃いい精液…私の中に…いっばい出してえっっ……』

桃子の膣口からドクドクと精液が噴出した。恍惚の表情の桃子が…熱い吐息をつく。



清水はその様子を見て、今日何度目かの絶頂を迎えた。

その時突然リビングの扉が開いた。

「よう本田…やってやがるな？」

「へっ…遅エーぞ沢村！」

入ってきたのは全裸の沢村だった。先程までテレビに映っていたのと同じく全身に汗をかき、陰茎は高く屹立している。

「つたく…他人の母親に何回出してんだよ…」

「バックあんなエロい母親なら何回でも出してやるよ。お前との約束があるからあそこで切り上げて来たんだぜ？」

清水は訳もわからず吾郎を見上げた。笑う吾郎。

「つて事だ清水。この映像は録画じゃなく…奥の部屋を中継してるライブ映像なんだ。今ごろ奥の部屋で…小森がかーさんとズコズコヤッてるはずだぜ？」

呆然とする清水。慌てて身体を隠そうとするが…絶頂の余韻で身体が上手く動かない。吾郎はそんな清水の身体を抱え込み沢村の目の前で愛撫を加え始めた。

「ほ、本田…バカッ…止めっ…はあっ…あううっ……」

乳首をキツめに摘まれ清水は息を荒げた。うっすらと生えた恥毛を撫でられ…肥大したクリトリスもコリコリといじられる。もともとオルガスムスの余韻に浸っていた為、僅かな刺激で早くも自分を無くし始めていた。

「ふふん本当だったんだな…。あれだけ学校では本田の事を避けてる清水も…本性はこれだけドスケベな淫乱女だったって」

沢村は固く勃起したペニスを清水の鼻先に突きつけた。

「さ…沢村あつ…違っ…これわ…あああっっっ！」

指三本で膣内を掻き回され、思わず高い声を上げる清水。朦朧とした意識の中…吾郎が耳元で囁いた。

「言っただろ清水…。男がオレだけだとマンネリになるって。ホ



ラ、ど・う・し・て・ほ・し・い？」

火照った尻肉を吾郎の固いペニスがノックする。そして目の前には…桃子の淫蜜に濡れる沢村の肉棒がユラユラ揺れている。

「……だ……抱いて……」

「ん？…何だつて？」

「も…桃子さんみたいにつ……みんなで…みんなのチンポで私をメチャメチャにしていって……」

その言葉だけで…清水は軽く絶頂した。

茂野邸の奥の和室に…清水と桃子は並んで縛られ、転がされていた。手は拘束され、M字に開かれた両脚も棒で固定されている。愛液で蕩けきった性器も淡く色づいた肛門も…全てが丸見えだった。

その様子を冷酷にデジタルカメラが記録している。

「ほ…ほんだあ……」

「ご…ごころお…は…早くっ…おかしくなっちゃう……」

「へへっ…ホントいやらしいな2人とも。言っただろ？これはイクのを耐える訓練だって。清水もかーさんも…チンポ突っ込まれるとすぐにイツちゃうからな」

吾郎と沢村は動けない2人を先ほどから筆と羽箒で弄んでいた。特に脇や乳首、性器の周りを念入りに責め立てる。2人もクリトリスは完全に勃起し…特に桃子は男性器の先端のような中身が露出し、ヒクヒクと震えていた。

「かーさんはこっちも弱いんだよなあ」

吾郎は小さなピンク色の球が連なる奇妙な道具を取り出すと、それを愛液でベツトリ濡れた桃子の肛門にズブズブと埋め始めた。きっちり閉じられていたはずの窄まりだったが、ひとつ…ふたつ…さほど抵抗無く吞み込んでいく。

吾郎は最後まで埋め込むと、それをグツと一気に引き出した。

そしてそれを幾度も幾度も…繰り返す。

「ひ…あふあああ…っ…っ…っ…」

桃子は声にならない叫びを上げ悶え狂った。舌を突き出し…犬のような荒い息を吐く。

その鼻先に、吾郎の巨大なペニスが突きつけられた。

「へへっ…かーさん、マンコとケツ…どっちに欲しい？」

「お…おしりいっ…お尻に欲しいのおっ…吾郎のオチンポで…かーさんのお尻の穴…ズコズコ抉ってえええっ…」

満足そうに笑う吾郎。

「いいぜ…。かーさんの直腸の中、オレの極太でグチャグチャに掻き回してやるよ」

吾郎の赤黒い肉棒がズブズブと母親のアナルに呑み込まれていった。手足の拘束を解かれた桃子はむっちりした巨尻を振り、息子のペニスを受け入れる。

何度も挿入されたはずの秘門だったが…そこは全く緩くなる事も無く吾郎のペニスを締めつけてきた。押し出されるように膣口から先程の小森の精液がビュツと噴き出す。

輪ゴムのようにピンと張り詰めた母の秘肉に包まれて…吾郎はペニスがより熱くなってくるのを感じた。

「クツ…やっぱかーさんのココは…サイツコーだ…」

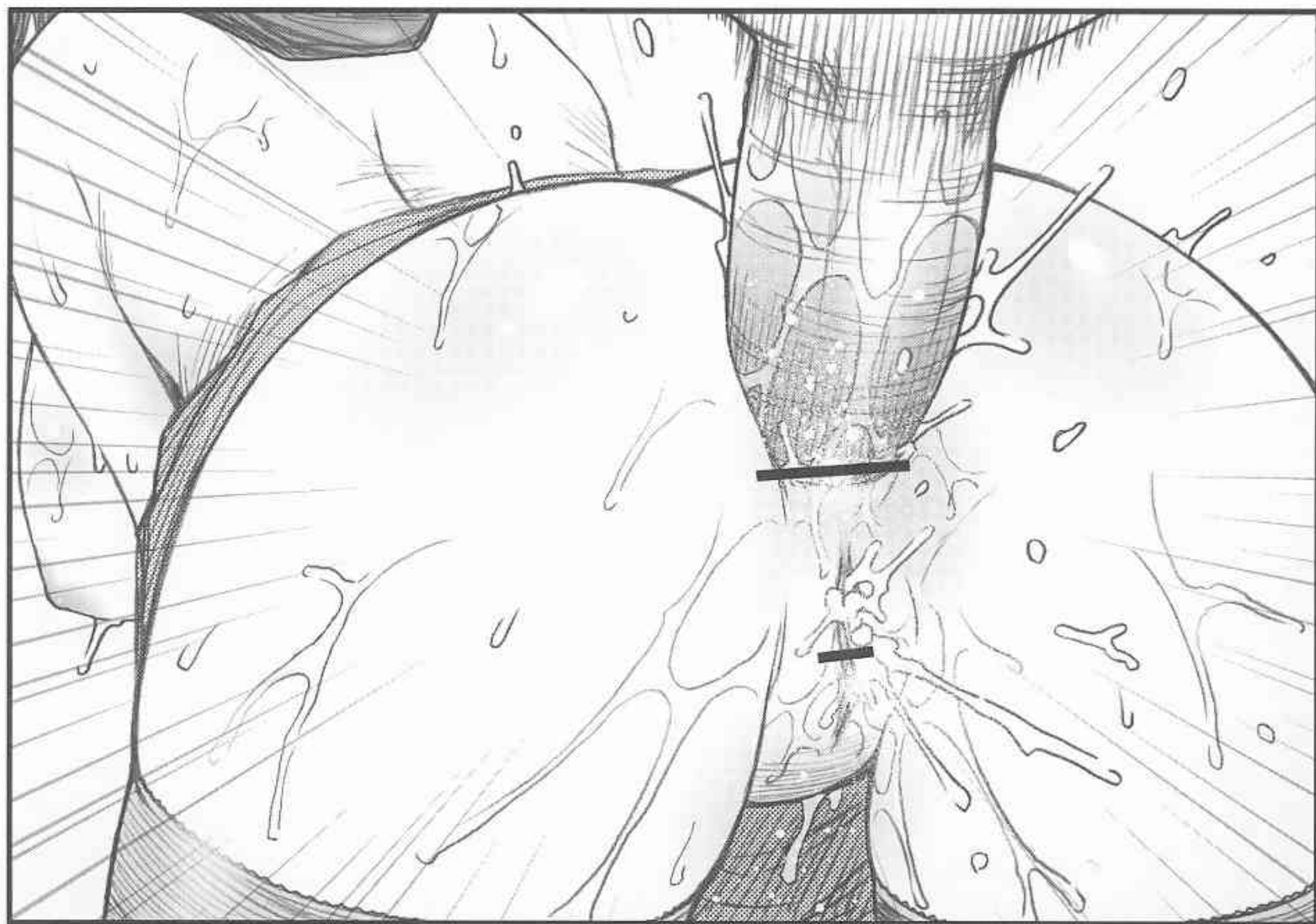
「吾郎の…チンポも…大きいっ…」

歓喜の声を上げる桃子。

そんな親子の様子を…縛めを解かれ、後ろから沢村に貫かれた清水が陶酔しきった表情で見つめていた。

「どうだ清水っ…俺のチンポは気持ちいいかっ？」

沢村が清水の膣壁を擦りながら叫んだ。幼馴染の膣内は友達の母親ほどのまろみと柔らかさは無かったが、その分キュッキュツと適度な弾力と肉感を持ってペニスを締めつけてくる。



「はあっはあっはあっ……沢村のチンポも……気持ちいいっつ……」

初めて吾郎以外のペニスに刺し貫かれ……清水も激しく興奮していた。母親の肛門を犯している吾郎の横でクラスメイトの沢村に犯されるといふ異常な状況が、清水の脳髓を熱く焼く。

「し、清水さん……」

デジカメでこの淫猥な肉の饗宴を撮っていた小森が、堪らず清水の前に強ばったペニスを差し出した。四つん這いの清水は心得た顔で、それをそのまま口に含む。

「あむう……小森の……ヒンポも……カタくて……美味ひい……」

裏筋を舐め上げ、カリの隙間に舌を這わせる。鈴口を甘噛みし、口腔全体で幹を刺激する。包み込むような桃子の愛撫と違い……ピンポイントで清水の精を吸い出そうとする様だ。桃子の口の中は温かかったが、清水のそこは熱いくらいだった。

小森は手に持ったデジカメの事も忘れ……幼馴染の口腔愛撫に酔いしれた。

吾郎が桃子の直腸内に射精するのと、沢村と小森が清水の柔肉で絶頂を迎えたのはほぼ同時だった。吾郎は桃子の背にもたれかかり……複数回に分け精液を吐き出す。その間も熱く息を吐く母親の舌を摘み、ねぶり上げる。だらだらとよだれを垂らしながら……うっとりさされるままの桃子。清水はそんな桃子に近づき、優しく舌を絡め始めた。

「あふう……し……清水さん……ん……はむう……」

「ん……お母さん……とつても……イヤらしいです……」

チュッ……ピチャ……クチャツ……チュ……

いつしかそれは濃厚なディープキスに変わり、二人はお互い激しく舌を吸いあっていた。清水の顔に浴びせられた小森の精液を桃子が舐め取り、清水の口に注ぎ込む。清水もそれを口腔内で反芻し、再び桃子の口の中へ……。無限に続く精液のキヤツチボール。甘ったるい匂いが辺りに立ち込める。

「清水もかーさんも……本当に精液が好きだなあ」

吾郎が早くも回復した陰茎を誇示するように振りながら、あさましく舌を絡めあう母親とガールフレンドに近づいた。

「な……何言ってるんだよ本田あ……。全部っ……お前がっ……教えた事だぞ……」

「そうよ吾郎……。あなたが……。私も清水さんも……こんなイヤらしい身体にっ……し……したんだから……」

ビクンビクンと身体を震わせながら抱き合い、抗議する清水と桃子。ぼつてりと火照り、蕩けきった唇を白濁液がキラキラと糸でつなぎ……こぼれ落ちる。

「何だよ全部オレのせいだよ。なら本当は……2人ともせーえき嫌いつて事か？」

吾郎は逞しく勃起した肉棒で二人の顔を優しく撫でた。

「あふあ……あ……。キ……キライな訳じゃ……ないけど……」

「ふあああ……ぐ……吾郎お……。わ……私は……精液……大好きよ……」

「ああ……お母さん……ずるい……。私だつて……大好きなのに……」

欲情する二人を見て、薄く笑う吾郎。

「そんなに好きなら……次はこうしてもらおうか」

清水と桃子は新たななる被虐の予感に瞳を輝かせ……打ち震えた。

「ん……あふああ……し……清水さんろオマンコから……せーえき……たふさん溢れてふるう……」

「あんっ……ああ……お、お母ひゃんらつて……お尻の穴とっ……オ……」

オマンコかりや……せーえき……ドクドク……出てきまふううっ……」

清水と桃子はシックスナインの体勢で、お互いの性器を激しく舐め合っていた。特に清水の顔には、上に乗った桃子の膣口と肛門から溢れ出る精液が間断無く降り注ぎ……愛くるしい顔を白濁に染め上げている。

桃子は自分が吐き出した精液を回収するかのよう……清水の股間に口を当て、逆流してくるソレを大きく舐め吸っていた。



「な、なあ本田……。オレもお前の母さんの……ケツに挿れてもいいか？」

「本田くんっ……ぼ、僕は……清水さんの中に……」

瑞々しく健康的に引き締まった清水の肢体と、艶っぽく官能的に熟れきった桃子の肉体。汗と精液にまみれ、淫らに絡み合う二匹の牝獣の姿を見て……沢村と小森はガマンできなくなっていた。ガチガチに勃起したペニスの先からは先走り汗が溢れている。

吾郎は薄く笑い、小森からデジカメを受け取った。

「沢村くんっ……沢村くんっ……。オチンチンッ……お尻にっ……深く……入ってるううっ……」

「はあんっはあんっはあんっ……小森のオチンポ……すっごいカタいいひいっ……」

桃子と清水は向かい合わせになりバックから犯されていた。四つん這いで中央に立つ吾郎のペニスを舐めしゃぶる二人の首には首輪がはめられ……お互いが短い鎖で結ばれている。熱い唾液と吐息が混ざり合い、甘く濃厚な牝臭が籠る。

屹立したペニスを母親と幼馴染の唇でヌルヌルと扱きながら、吾郎はデジカメで二人の顔を写していた。

「ほら二人とも……自己紹介と今の状況を説明してくれ」

レンズ越しに吾郎が促す。二人とも……今のこの痴態が記録されている事を知り、より一層官能の炎を燃え上がらせた。

「あっ……あっ……あはあっ……し……しげのっ……桃子です……。息子の友達の沢村くんにっ……おっ……お尻の穴を犯されながら……その息子の……オチンチンしゃぶってますっ……」

「はあっ……はあ……ふああっ……し、清水……薫です……。小学校からの……友達がっ……マンコ……オマンコに挿れますっ……。私も……お母さんといっしょに……チンポ……啜ってますっ……」

「ケツ……よしじゃあ次は……お互い今の感想頼むわ」

吾郎は唾液でベットリ濡れたペニスを母親の咽喉の奥深くに呑み込ませると、その様子をカメラに収めた。

「はもおっ……ひ……気持ち良いれふっ……。ふあ、沢村ふんのオヒンヒンふあ……私のお腹の中をお……いっばいっばいグリグリしてふれふえ……ク……クリトリシユも……とつてもグリグリ……してくれまふゆうっ……」

息子の肉棒を美味そうにしゃぶりながら桃子は叫んだ。咽喉の奥深くまで肉棒を啜え込みながら声を出すため、カリに与えられる振動と刺激はとつてもないものとなる。

「んっ……次は……清水な……」

桃子の唾液にヌメったペニスを清水の口に含ませ、その顔にカメラを寄せた。

「ふあ……ふああい……わ……わらひもイツひやいまふう……こ……小森のチンポは小さいけろ……その分カタくっ……わらひのオマンコオ……こ、壊れ……ひやいまふうっ……」

気が付くと桃子が睾丸と肉竿を、清水がカリの先端を啜え込み……熱心な愛撫を加えている。

吾郎は満足そうに笑うと、この美しく淫蕩な母親と……愛らしく淫猥な幼馴染に問いかけた。

「じゃあ最後の……質問な……。二人とも……今幸せか……？」

桃子と清水は顔を見合わせ頷くと……一緒に叫んだ。

「はあっ……はひいっ……わらひたひ……」

「と、とつても……ひあわせれふうっ……」

二人が叫ぶと同時に……吾郎は甘く濡れる柔肉の中に熱いマガマを放った。

〈文〉 里見ひろゆき
〈絵〉 空鶴

☆作品解説☆

ハイそんな訳で『MOTHER SECOND』如何でしたでしょうか！って今回オイラ何もやって NEEEE！空鷲パートがモリモリ押しして…里見パート全然取れなかったんだモン！本当は吾郎 × 清水のおちゃらけえっちマンガ描くつもりでネームまで切ったのですが…ページも無いし空鷲パートとのバランスも悪いので泣く泣くボツにしました。その分前回やり損ねた沢村 & 小森 × 桃子先生を！と思ったらやっぱりページが足り NEEEE！フガフガ！仕方なく今回はSSのみの参加と相成りました。う～む欲求不満…。

うかひ前回は思いましたけど…文章は己の性癖がモロに出てしまうので恥ずかしいですね。あと頭の悪さとかも露呈するし(恥！)でもえろシーンとか結構ねちっこく描写出来るので…今回みたいなネタだと向いてるのかも。と言うか桃子先生と清水さん…前回以上にヒドイ事させちゃって本当ゴメンナサイ。愛してます。

んで調子に乗ってガスガス書いてたらページオーバーして「言いたい放題」のページ無くなってるし(笑)いやホントスンマセン。さすがに心残りなので…HPに今回の「言いたい放題」はアップします！(アドレスは奥付)フツーこういう企画ってえろ～すなイラストとかでやると思うんだけど…まっウチらしいか(笑)

それで今回も修羅場中に色々な事件が起こりました…。
現在里見イチオシアイドル仲間がすみタン結婚とか！
このタイミングで相手がプロ野球選手って…
何かの暗示!? いやあめでとうございます♪
それと今月号の月ちゃんの『WORST』！
ぎゃーっマジっすか!? コミックス派の人の為に
詳しい事は書かないけど…いやビックリした！
…って誰も月ちゃんなんか読んでなさそうだな(笑)
あとビックリしたのは『砂の鎖』4年半ぶりに
続巻発行！出たのもビックリだけど…
中見たらこの本の内容とエラッカブリ
なのにもビックリ！
やばいなあ…今のご時世、
パクリだと思われたら
どうしよう(笑)

てアニメ版『MAJOR』の第2シーズンが
始まりましたが…まだ始まった
ばかりなので何とも。とりあえず
ハイペースで話を消化する癖を
何とかして欲しいです。
(第1シーズン52話かけて
やって欲しかった…)
まっ何だかんだ言っても
楽しみなんてすけどね(笑)
相変わらず桃子ママンは
えろいよ！

早くイカバラタイズに行きたい…

里見ひろゆき

RIROLAND
HEAVY GAUGE 08

MOJER
マザーセカンド **SECOND**



全ての人に…ゴメンナサイ…

奥付

発行日 2005年12月30日

発行者 RIROLAND

発行協力 空鶴寺

印刷所 しまや出版さま

連絡先 rl-max@din.or.jp

HPアドレス <http://www.din.or.jp/~riroland/>

COMIC MARKET

COMICMARKET 2005 WINTER

HEAVYGAUGE08

FOR ADULT ONLY!

DRAMATIC ADULT COMIC

MOJER
マザーセカンド *SECOND*

RIROLAND PRESENTS



4年ぶりに横浜へ帰ってきた吾郎。
しかし再会した清水は吾郎の誘いを拒み続ける。
そんな清水に吾郎が取ったとっておきの秘策とは…？